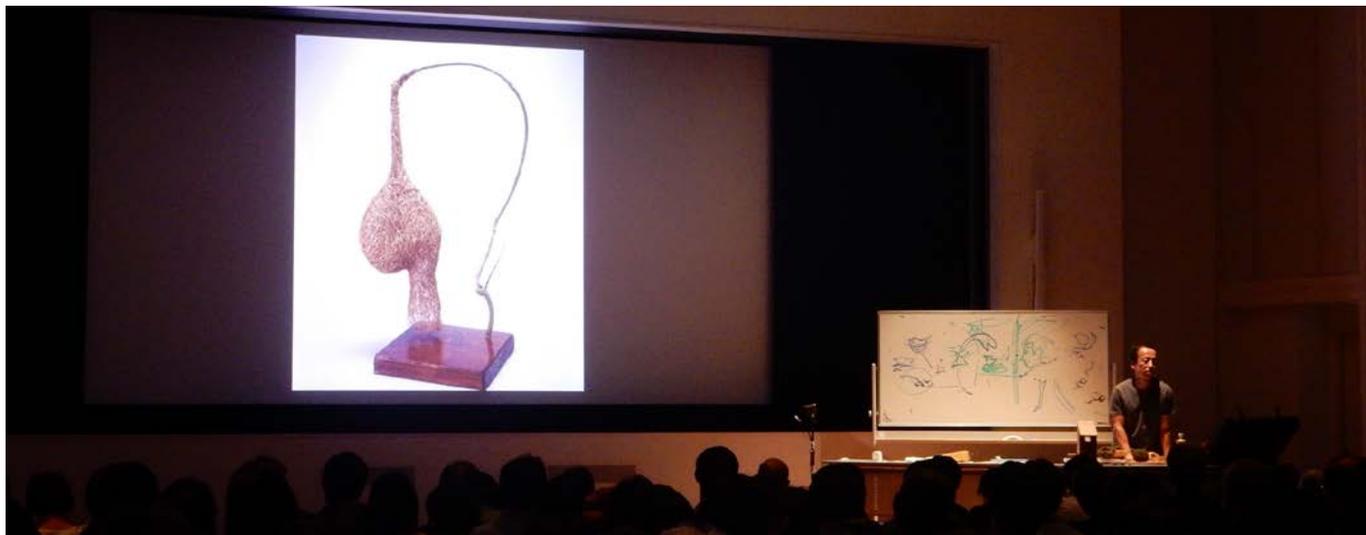


『鳥の巣が教えてくれること 人はなぜものをつくるのか』

鈴木まもる氏 (画家・絵本作家・鳥の巣研究者)

鈴木氏は、画家・絵本作家であり、鳥の巣研究者です。絵本で受賞されるだけでなく、鳥の巣研究者として第一線で活躍され、数多くの評価を受けています。今回の日本設計創立 50 周年記念セミナーでは、鈴木氏のこれまでの研究から、映像や美しいドローイングを用いながら、なぜ人はものをつくるのか、知識や情報が氾濫した今の世の中をどう生きるか、についてお話を頂きました。



□はじめに ー絵本とはなにかー

私は絵本作家ですが、話と絵の両方を作ることもあるし、だれかが書いたお話に合わせて絵を描くこともあります。そのような仕事を依頼された時は一度話を読んでから、自分の頭の中で絵が描けるかでお仕事を受けるかどうか決めていきます。たとえ全く同じ言葉で書かれた話でも頭に浮かんだイメージを絵にすることは想像の世界なので、人それぞれで違いが出てきます。絵本の世界では正解や間違いはなく、描きたい世界や登場人物の色々な生き方をいろいろな絵で表すことができます。つまり、子供たちは絵本で多様な世界や生き方を感じることができます。日本にはいろいろな決まり事があります。学校でもみんなと同じようにできるかどうかだけで判断されてしまいがちです。私は小さい時、人と同じことをやるのが得意ではなく、言われたことができない子でよく叱られていました。その風潮は学校の中だけではなく、世の中も他と違ってないかどうかで、良い悪いを決めることが多くなっていると思います。そういった学校での教え方によってストレスを抱える子どもも多いと感じています。その子が持っている特徴や、得意なこと好きなことがテストの点数にならないかも知れませんが、それぞれの個性として認めて伸ばしてあげることが大切だと考えています。

以前に畑でキュウリを育てていた時に1本だけ地面を這うキュウリがいました。なぜだろうと、よく見たらそれはかぼちゃでした。小さい双葉の形は同じなので、苗屋さんが間違えて売ったものでした。人間にも同じことが言えると思います。みんなが同じと最初から決めつけるのではなく、一人ひとりを

しっかり見てその子なりに生きていけば、その子なりの実を作るのだと思います。そしてそれは鳥の巣も同じで、それぞれの鳥ごとに生き方が違うので、鳥の巣も違ってくるのです。

□なぜ鳥の巣に興味を持ったか

私は山の中に暮らしています。ある日、家のそばの藪の中で、枯れ葉でできた古い鳥の巣を見つけました。きれいなお椀型で、「どうやってこんなにきれいにできるんだろう」と、家に持ち帰りました。別の日、二股の枝の分かれ目の間に作られた苔の巣を見つけました。「なんてかわいくて、何羽のひなが巣立ったんだろう」と、それも家に持ち帰りました。こうして段々と家に鳥の巣が増えていきました。ちなみに鳥の巣は家ではなく卵をヒナにかえすためのもので、ヒナが巣立つともう使わず、雨風で壊れてしまいます。なので古巣を収集することは鳥が困るとか、自然を壊すということはありません。持ち帰った巣について、どれがどれの鳥の巣か調べようと図書館に行きましたが、鳥の図鑑や写真集はあっても鳥の巣のことが書かれている本はありませんでした。馬のたてがみにつくダニの本はあるのになぜ鳥の巣の本はないのか。そこから私はさらに鳥の巣を調べるようになっていきました。

世界中に多くの鳥類学者はいます。それぞれの鳥を研究している人はその巣を知ってはいますが、鳥本体の研究が主で、鳥の巣を見ても、卵がいくつ生れているか? 10年前と巣の増減はどうかといった、国勢調査的に数を数えることが主で(それはそれでとても大切なことです)、私のように造形的にみるという人がいなかったのです。鳥の巣は壊れやすく見つから

ないように作るので、今まで、一般の人の目に触れることがありませんでした。新しい生命が生まれ育つ大切な場所で造形的にも美しく、どうしてもほかの人にも知ってもらいたくて、絵本を描いたり、展覧会をするようになりました。

□鳥とは ー鳥と人間が通じるところー

鳥の巣を調べていくと鳥の生活や生態が分かってきて、鳥とはなにか調べるようになりました。簡単に言うと、恐竜のうろこが羽になり、鳥は空を飛べるようになるのですが、そのために体を軽くする必要から、1日に1個しか卵を作れないし、体の中に保持してられません。そこで安全に卵を置いておける場所が必要になり、体の外に子宮のような物を作るようになったのが鳥の巣なのです。

メジロは二股の枝にコケを使ってお椀型の巣をくっつけます。メジロはこの巣を作るとき、自分が回りながら自分の周りに巣材を積み重ねて胸で押さえお椀型にします。人間は、お椀を作る時はろくろを回しますが、メジロは巣の中で回ります。回る主体が違いますが、結果的に同じお椀型ができるわけです。なぜメジロが回るかという、これから産む卵とヒナが寒くないようにとか、周りの外敵に見つからないようにと、安全を守るためです。鳥によって、上から攻められると思う種は上にも回り、球体の巣になり、寒い地域だから羊の毛を集めると、羊の毛でできた巣になるわけです。地球という多様な環境に住み分けしているのだから、気候や外敵が違うことから、それぞれの親鳥の安心を求める気持ちが違い、作る場所、巣材、形態が違ってきて、多様な巣の形になるのだと思います。

鳥は巣の作り方は教わったりしません。これは実験で証明されていて、ある時期になると本能的に作るようになるのです。私は人間にも、自分の安心できる場所で自分らしく生きることを求める本能があると思います。でも知識や情報が溢れかえっている今の世の中では、そういった本能に気付かなかつたり、規則に縛られて自分らしく生きられず、ストレスをためていることもあると思います。

木の穴である「うろ」に巣を作る習性の鳥シジュウカラは、ヒナをうろから巣立たせる時、それまで毎日えさを与えていたのに、巣の入り口でえさを見せるだけで飛び去ってしまいます。最初はヒナも巣から出るのを怖がっていますが、ずっとえさをあげないとどうしようもなくおなかがすいて巣立つわけです。巣は、それまでは安全な空間ですが、飛べるようになったのならば外を飛び回る方がもっと安全にその鳥らしく生きられるからです。でも人間の場合、つい甘やかして経済的に援助したり、親が余計なことまでするから自立しなくなることもあるようです。

私は日本にはない鳥の巣を見に海外にまで行くようになりました。ハタオリドリはオスがヤシの葉を裂いてかごのように編んだ巣を細い枝先に作ります。その形は人間の妊婦さんの形と同じです。メスは巣作りがうまいかどうかでオスを

決めます。ツリスガラは寒さから子供を守るために羊の毛を集めフェルト状にして靴下のような形の巣を作ります。私はこれらの巣をみて、多様な環境で命を守るために動いた結果が鳥の巣の形になるのだと思いました。それぞれの鳥がそれぞれの環境に適応して子供を安全に育てられる巣を作っているのです。

シャカイハタオリは電柱や木に枯草を大量に集め、巨大な巣を集団で作ります。気温差の激しいアフリカの気候から身を守るために多量な草の壁を作ることで、温度差を小さくしているのです。この鳥たちだけは巣立った後も暮らす場所として巣を再利用します。昔の人間は、この巣を見て真似をして茅葺屋根の家を作るようになったのだと思いました。草を編んだ籠のような巣、羊の毛をフェルト状にした巣。人間はこれらの自然の造形物や行動を見て、道具を作ったり暮らしの知恵を蓄えてきたのではないのでしょうか。



シャカイハタオリの巣と鈴木まもる氏

□絵本作家がなぜ鳥の巣博士になったのかー本能に従ったものづくりー

鳥の巣の研究を始めた頃から、私はなぜ絵本と同様に巣のことが好きになるのかがわかりませんでした。しかし、ある日、その理由がわかったのです。彼らは自分のヒナが育つために巣を作り、私は絵本を子供の心が育つために描いています。お互い小さな命が育つためものづくりをしているところは同じことだとわかったのです。それは、絵本作家の私だけに当てはまることではなくて、パン屋がパンを作ることも、日本設計がビルを設計することも、元をたどれば家族が幸せになり、小さな命が育つために行われていることだと思います。それぞれの人がそれぞれの形で物を作ることで、人間という社会を育てているのではないのでしょうか。

そのような観点で言えば、多様な素材・手法でできた鳥の巣は、人間の世界における職業に成り代わります。私たちの世界には、多種多様な職業がありますが、みな新しい命が育つために行っていることなのではないのでしょうか。

ところが今の世の中は、姉齒事件に代表されるような耐震偽装など、命のためではなく、地位やお金のためのもので

をする人がいたり、自分が安心できる場所がないストレスから、だれでもよいからと悲惨な事件を起こしたり、子育ての不安から我が子を虐待したり、家に閉じこもって親に暴力をふるったり…という忌まわしい事件が起こっているのは悲しいことです。

皆、安全で安心できる空間を、本能的に知っており、自分が本当は何をしたいのか、何をすればいいのかを、生まれながらに知っているはずで。それは、親にも誰にも教わるわけではなく、自分で見つけ出すものです。情報が氾濫する現代は選択肢が多すぎて、その本能が見えなくなっているのでしょう。子供たちに幼い頃から電子黒板やスマートフォンを与えることにどれだけメリットがあるか疑問です。

(一枚の鳥の羽を見ながら) 一枚の鳥の羽根を見るだけで、この羽根がどの部分であり、全体がどうなっているかを描くことができます。まずは、現実にあるものをよく観察し、できることから始める、体を動かす、想像することで部分から全体へ、自分なりにそれぞれの世界観でものを形づくるのが大切で、それは命が生きていくことにつながるものづくりだと思います。お金のために物を作るのではなく、生命のために物を作るということを鳥の巣から感じていただくと嬉しいです。それが良いものなら結果的に利益にもつながると思います。



□対談 - 鈴木まもる×黒木正一郎-

黒木: あまりにも予想を超えるお話でした。質問を、いくつかさせていただいてもよろしいでしょうか。まず、鳥は巣作りをどのように覚えるのでしょうか。

鈴木: 巣を作る鳥を6世代外界から隔離して育てた場合も、同じ巣を作ったという結果があります。彼らは作り方を覚えるわけではありません。生まれつき備わっている本能です。動物園で飼育されていても、そこにある材料で巣を作ります。ある鳥の種は、巣を作ることが上手かどうかで旦那さんを決めます。人間の世界は、学歴だけで決めると悲しいことが起きるのかもしれない。

黒木: 私たち人間にも、もの作りに対してそのような本能が備わっているとすれば、私たちは誰かに教えられなければ、何もできないと思いついでいるのかもしれない。

鈴木: そのとおりだと思います。

黒木: 都会には巣を作るための材料が無いような気がするの

ですが、都会にすむ鳥はどのようにして巣を作るのでしょうか。

鈴木: 通常自然のツルを使うヒヨドリがビニール紐で巣を作ることがあるように、都会でも似た人口の材料を見つけ巣を作ります。しかし、壊れやすかったり、ビニール紐がヒナの首に絡むことがあったりするため、やはり自然の材料で作る方が安全に小さな命を育てることができると思います。有名な話として、カラスがハンガーで巣を作るということもあります。でも、カラスは枝が無いからハンガーを使っているというわけではなく、ハンガーが曲がったり、強度があることを知って、より強固な巣を作ろうとしているようです。また、ニワシドリの種族は、巣ではなく、求愛の場として東屋のようなものを作ります。彼らの生息するオーストラリアには天敵がおらず、他の鳥よりも脳が大きいことがわかっています。もの作りを続けていくには、平和であり脳が大きいことが大切で、人間の社会でも同じことが言えるでしょう。

黒木: 人間に本能として備わっているものは何でしょうか。

鈴木: それは、その人らしく生きるということで、誰かに教わるものではありません。人それぞれで違うものであり、自分で気づくものであると思います。

黒木: 鳥の巣の作りかたの傾向や全体像は見えてきたのでしょうか。

鈴木: わかっていないことはまだまだ果てしなくあると思います。

黒木: 建築を設計する、建物を作るとは、安全をどのように作るのかを考えることで、本来、人間が家、すなわち小さな命を育てる場所を作るとき、土を固めて洞窟のような家を作るか、かやぶき屋根だけを作る、そのどちらかでした。なので、わりに土を混ぜて強度を上げるなど、本能に従う一方で、現代のようなさまざまな建築手法は、鳥や他の動物に進化の過程で教わってきたのかもしれない。

鈴木: ものを作るに関して、人間が知っている知識は限られています。我々は自然からより多様なことを学ぶことができるのではないのでしょうか。その学びからものづくりをするときに大切なことは、売りたいから、流行っているから、稼ぎになるから、という経済的な理由からではなく、自らが感じる「生命が生きることを嬉しく感じる」本能的な感覚だと思います。そうすると、安全で、安心できる場所が生まれ出され、小さな命が育つことに繋がるのだと思います。現代において、言葉化されていない大切なものはまだまだあると感じます。

□質疑応答

Q. カッコウなどの種に見られる托卵についてはどうでしょうか。巣を作る能力はあるのでしょうか。

A. なんらかの進化の過程で、自ら巣を作らず、他の鳥の巣に産卵するようになったようです。自分で巣を作るカッコウ科の鳥もいます。托卵については、まだ具体的な理由について

はわかっていません。

Q. 鳥はくちばしでわらを編んだりしながら巣を作ると思いますが、巣の形は、鳥のくちばしの形によって決定するのでしょうか。

A. 巣の形は、鳥の腹の形で決まります。巣を作る際に鳥は巣の中で、自ら回りながら、形を整えていくからです。くちばしの形は、細い穴の中の虫を食べるのか、水の中の魚を食べるのかなど、何を主食にしているかによって決まります。繁殖期は、生存の長い期間あるわけではないので、くちばしは主に食べ物を獲るのに適した形状で、巣の形には影響しないのが通説だと思います。もちろん、くわえられる物という関係はあります。

Q. 鳥類の頂点に立つ猛禽類はどのような巣を作るのでしょうか。

A. 彼らは、見つからないようにということを考えず、離着陸しやすいところに巣を作ることを考えるので、高い木の上や崖に枝を集めて作ります。

Q. 鳥の巣は一回しか使えないのでしょうか。現代の人類はリノベーションの時代で、もし私が鳥なら修理して使うことを考えるので、鳥にも古い巣を直して使う考え・本能はないのでしょうか。

A. だいたい枯れ葉などで作るので、巣はヒナが巣立つまでの強度でしかできておらず、雨風などで壊れたり、素材として弱くなってしまうため、基本的には新たに巣を作ったほうが安全なのだと思います。古い巣の上に新たな巣を積み重ねたりすることはあります。

